

渇水対応行動計画改定

2020年4月13日

東京2020オリンピック・パラリンピック渇水対策協議会

協議会構成員

国土交通省関東地方整備局・経済産業省関東経済産業局・農林水産省関東農政局・（独）水資源機構
東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県・茨城県・群馬県・栃木県

■ 湧水対応行動計画を改定する目的

- ・東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が来年夏に延期されることになったが、首都圏に水を安定的に供給することは、引き続き重要である。
- ・2019-2020年冬季は、記録的な暖冬・少雪のため、今後の気象条件によっては、水需要が増加する時期に水利用に影響が生じる恐れがある。



水の安定供給のための湧水対応行動計画の「体制」、「対策」を拡充・強化し、湧水への備えに万全を期す

■ 湧水対応行動計画(2019.8.26)の進捗状況

○「水資源の確保対策」については、利根川・荒川水系等において、大会までに実施・準備する12の対策は、全て対応開始。

■ 湧水対応行動計画の主な改定内容

○利根川・荒川水系等において、3対策(武蔵水路等の新たな運用、既存施設の徹底活用等)を新たに追加。

○洪水期のダムの弾力的管理は、「ハツ場ダム」、「渡良瀬貯水池」を追加し、計11ダムで実施。

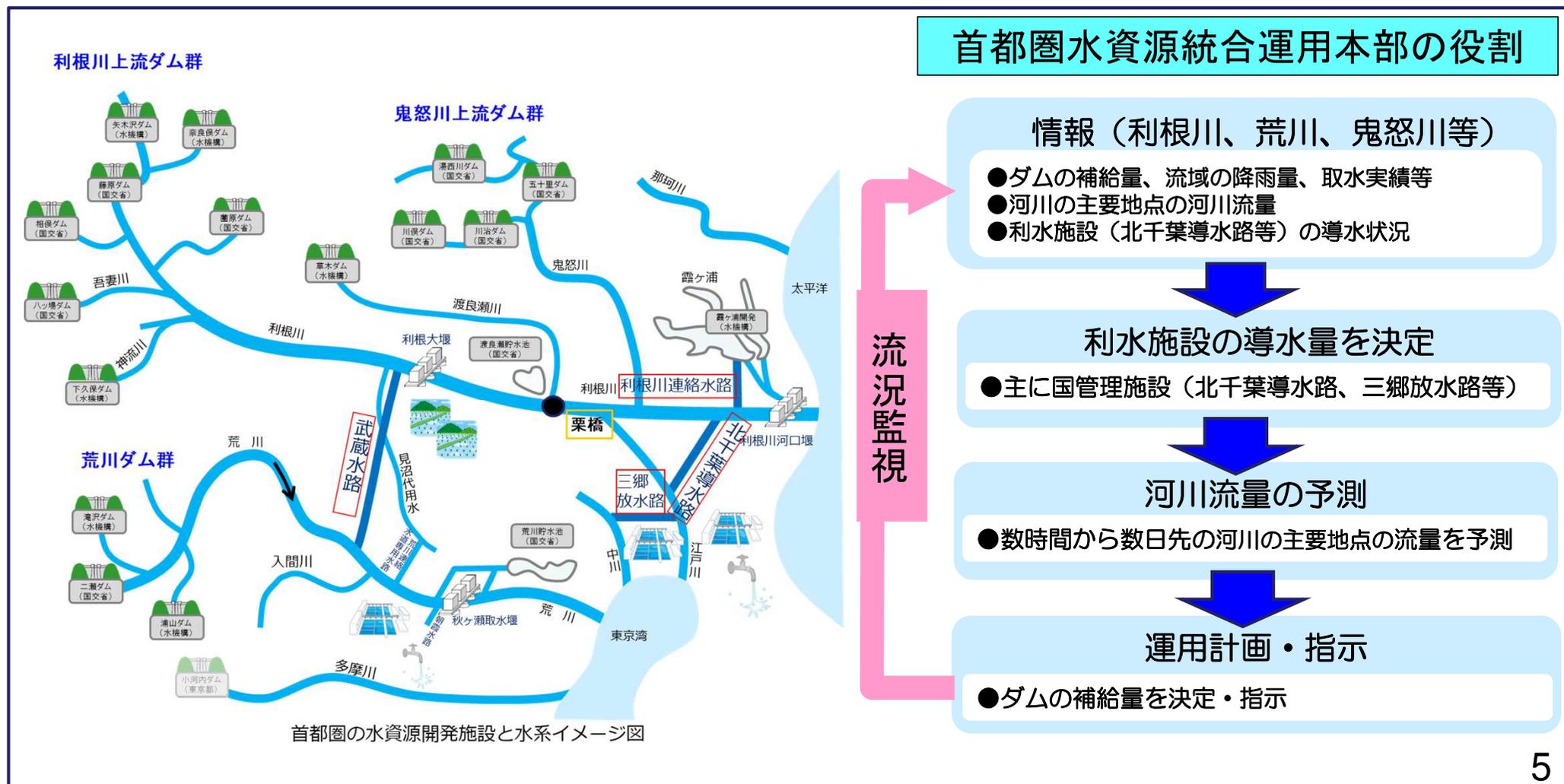
○「継続的な確保対策」について、「フェーズⅢ」の水不足の段階となった場合には、外国人観光客等に対して、外国語で節水を広報するよう努める。

- ・引き続き、関係機関の連携・協力のもと、「湧水行動計画」を適切に実行し、ダム群の貯水量の温存に努め、水の安定的な供給に万全を期す。
- ・なお、東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、改定後の本行動計画に基づき適切に対応し、実施状況を確認しつつ必要に応じて見直しを行うものとする。

		大会までに実施・準備する対策	大会期間中に水不足の懸念または発生した場合に実施する対策			
		フェーズⅠ	フェーズⅡ	フェーズⅢ	フェーズⅣ	フェーズⅤ
水資源の状況		大会までに実施・準備する段階	水不足が予見される段階	水不足の段階	深刻な水不足の段階	危機的な水不足の段階
水資源の確保対策	広域的な連携	協議会を活用した情報共有及び対策検討・調整				
		首都圏水資源統合運用本部の設置				
	利根川・荒川	洪水期のダムの弾力的管理の準備	洪水期のダムの弾力的管理・活用容量の貯留水の利用			
		ハツ場ダムの完成・運用開始				
		北千葉導水路、利根川連絡水路等の下流利水施設の運用強化				
		荒川水利用高度化施設の運用強化				
		武蔵水路等の新たな運用				
		既存施設の徹底活用				
		渡良瀬貯水池における干し上げ時期の変更				
		工事制限水位を伴うダムの維持修繕工事の調整(工事の後倒し)				
	多摩川	工事制限水位を伴うダムの維持修繕工事の調整(工事の後倒し)				
		貯水量の確保に努めた原水運用	渇水状況に応じ、原水連絡管を活用して多摩川水系の原水を運用			
		人工降雨装置の試運転	渇水状況に応じて人工降雨装置を稼働			
	相模川	工事制限水位を伴うダムの維持修繕工事の調整(工事の後倒し)				
洪水期のダムの弾力的管理の準備		洪水期のダムの弾力的管理・活用容量の貯留水の利用				
原水導水管を活用した相模川水系・酒匂川水系の連携を実施						

■首都圏水資源統合運用本部の設置

- 利根川上流域の少雪を踏まえ、利根川上流ダム群の貯水量を温存することを目的に、関東地方整備局では、首都圏水資源統合運用本部を設置します。
- 2020年には、武蔵水路等の新たな運用、北千葉導水路等の下流施設による導水量、鬼怒川・小貝川から流れる水量等を**統合的に管理することで、効率的な施設の運用が可能となり、ダム貯水量の温存を目指します。**



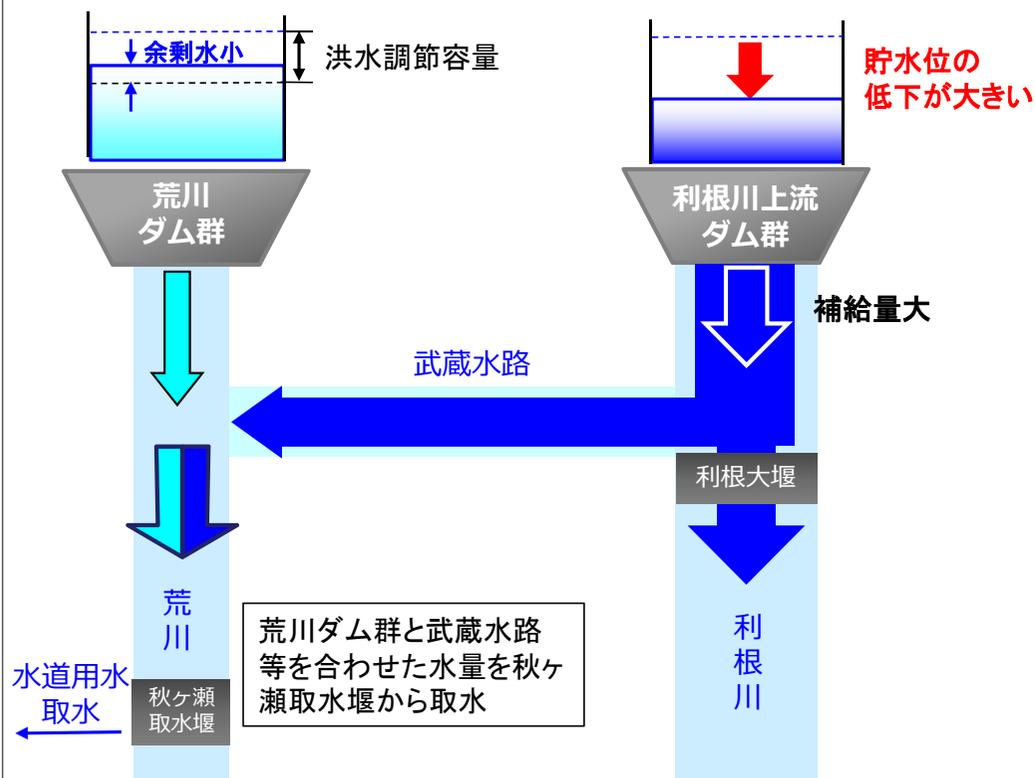
■ 武蔵水路等の新たな運用

- 利根川上流域の少雪を踏まえ、利根川上流ダム群の貯水量が減少した場合は、**荒川の余剰水※**を武蔵水路の通水量の一部に振り替えることで、利根川上流ダム群の補給量を抑制し、ダム貯水量の温存を目指します。

※7月の洪水期に向けて洪水調節容量を確保するための放流など、荒川に継続して余剰水が多い場合を想定。

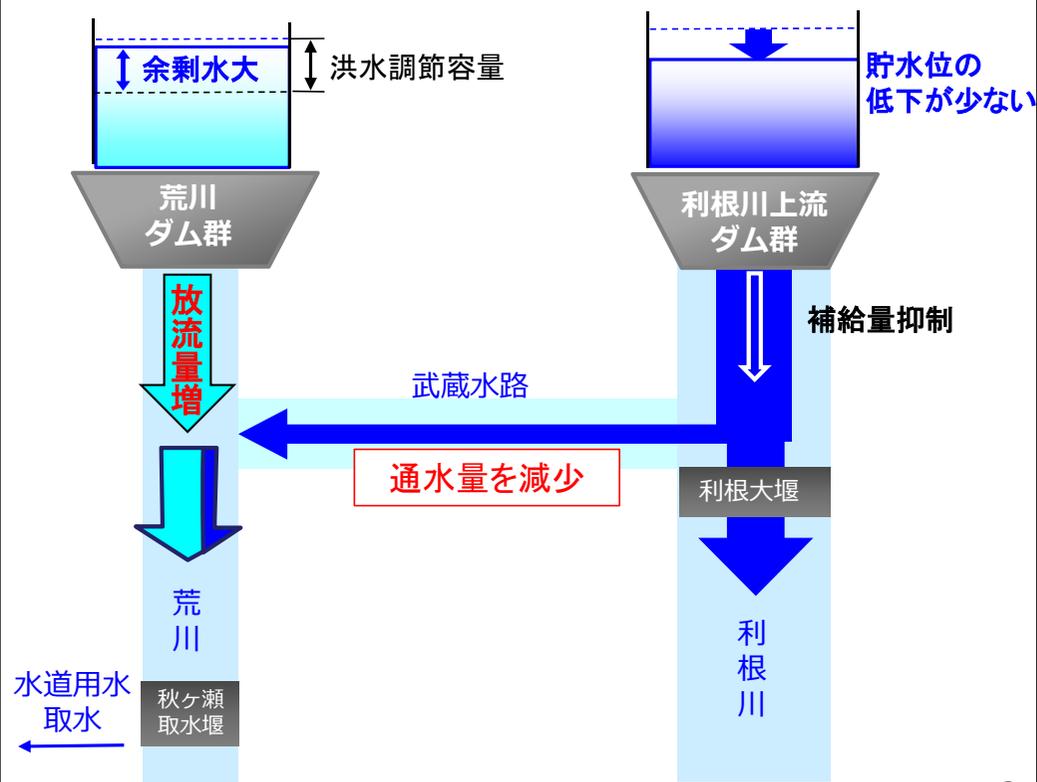
武蔵水路運用(流量調整)「なし」

・利根川上流ダム群の補給量が多くなり、**貯水量が減少**



武蔵水路運用(流量調整)「あり」

・武蔵水路の通水量を減少させ、利根川上流ダム群の補給量を抑制し、**貯水量を温存**



■ 既存施設の徹底活用

- 利根川上流域の少雪を踏まえ、野田導水機場の浄化用水導水のための既存ポンプを活用します。
- 既存のポンプを常時稼働し、利根川の水を利根運河を通して江戸川へ導水することで、ダム補給量を抑制し、ダム貯水量の温存を目指します。

※ダム群の貯水量温存のイメージは、【水資源の確保対策】③(北千葉導水路、利根川連絡水路等の下流利水施設の運用強化)を参照。

